

いひ、總持寺の號の文獻に於ける初見は、元弘三年九月附寺領安堵の國宣を求めた狀にある。能登名跡志に「諸嶽山總持寺は國至郡櫛比の庄にありて、曹洞派日城一宗の大總錄にして寺領四百石、地方一里四方拜領にて都合七百石とあり。境内に鬼屋村・日野尾村などとてあり。寺代官兩人、日野氏三十石、江尻氏廿五石寺領の内配分也。寶物は品々あり。後醍醐天皇勅所にして、世々の繪旨院宣數通あり。云々。本山開基肇山和尚、二世峨山和尚也。」と記する。

(一)伽藍—總持寺の寺基確立するに及び、伽藍の輪奐を壯麗にし、規模を廣大ならしめ、越前の永平寺に對して、能興の大本山たるべき體面と威嚴とを維持するの必要があつた。されば最初の工事が多年に亘つたこと勿論であるが、凡そ元中の初終(至徳から明德)に於いて、法堂以下附屬の諸堂宇が興造せられたと見るべきこと、之を同寺の文書に徴して明らかである。近世に至り一たび荒廢に歸したのを、天正十五年二月十四日前田利家は金澤寶圓寺の大透法徐に命じて再建せしめ、是より規模漸く整うたが、明治三十一年四月十三日火災に罹つたので、四十三年本寺を神奈川縣鶴見に移すの許可を得、舊地を別院として今の伽藍が復興することになつた。

(三)出世道場—總持寺と越前の永平寺とは、共に舊宿の僧に對して出世轉衣せしめることを朝廷に奏請する慣習を有してゐたが、之に關して兩寺は屢爭議を醸したのであつた。徳川家康乃ち兩寺を共に出世道場とし、當任に賜紫の特典を與へることを規定し、總持寺には元和元年七月總持寺諸法度を下したので、

前田利光(利常)もその附則として八月二十日諸嶽山總持寺法度を作り、正保二年後光明天皇の繪旨によつて益その地位を確保せられた。

(四)五院輪住—峨山紹領の時、正平九年總持寺住持職位の事に關して勅宣を下し、皇國の長久を祈るべきを命ぜられたが、峨山はその示寂の前年(正平十九、貞治三)五院輪番によつて本寺に住持すべきことを定めた。五院とは正平六年(觀應二)總持寺の境内に創建せられた大源宗眞の普藏院、通幻寂靈の妙高院、無端祖環の洞川庵、實峰良秀の如意庵、大徹宗令の傳法庵で、これらの列祖は天授四年(永和四)に至り連署して法管門徒心を同じくして本寺を守護すべきことを誓うた。之より未派末院から輪昇して五院を置し、五院は交代して大本山の主に當つた。五院の住持は之を現方丈といひ、門業を支配するもので、古くは三年を任期とし、後には一年を任期とした。明治元年六月太政官は、總持寺がもと永平寺から分派したものであるから、總持寺に於ける五院輪番の制を廢して獨住とし、總持寺の獨住から永平寺に昇進する法を定めた。然るに總持寺は之に服せず、古來の沿革を述べて舊の如く本山たらしめんことを請ひ、遂に太政官の容るゝ所となつて、二年十二月總持寺は永平寺と共に兩本山となつたが、しかも獨住の制は政府の指示する所に従はざるを得なかつた。次いで四年五月太政官は總持寺の輪住制を復せしむるの意があつたが、此の度は總持寺から時世の變遷を論じて之を拒み、遂に獨住制が確立した。

(五)山門—總持寺の山門は慶長、十五年芳春院夫人が、明年前田利家の十三回忌に當るを以て造らしめた所であつた。その棟札には、「當山門。仰冀。加賀大納言利家御内所末之。以觀音慈眼。壽福増延。子孫繁榮。成就佛法僧之功德。依羅漢聖靈。除災興。樂。百事吉祥。修證過現當菩提。皆慶長十五庚戌年暮春如意吉辰。」と記し、又「奉行越前住三輪藤兵衛尉藤原朝臣吉宗。同越前住大井久兵衛尉藤原朝臣直泰。下奉行田中仁兵衛尉重政。五十嵐角兵衛尉吉連。棟梁藤原朝臣森五郎左衛門尉清定。脇棟梁藤原朝臣橋比源兵衛尉重次。藤原朝臣名村基左衛門正藤。此下番匠登萬參千七百六十人。」と書かれて居たと傳へるが、今は存せぬ。

(六)塔頭—總持寺五院に屬する塔頭は凡べて廿二寺で、次の通りであつた。芳春院覺皇院以外は五院以下凡べて今存せぬ。

- |       |             |                             |
|-------|-------------|-----------------------------|
| 普藏院塔頭 | 興禪寺         | 寬正三年通峰和尚開基                  |
| 長泉寺   | 明應三年雲山和尚開基  |                             |
| 正覺寺   | 慶長二年別峰和尚開基  |                             |
| 正福寺   | 慶長十一年朝岸和尚開基 |                             |
| 妙高院塔頭 | 昌壽寺         | 長祿三年心忠和尚開基                  |
| 寶幢寺   | 應仁元年高岩和尚開基  |                             |
| 太清院   | 慶長四年象山和尚開基  |                             |
| 芳春院   | 慶長五年象山和尚開基  |                             |
| 玉泉寺   | 慶長十五年大透和尚開基 |                             |
| 雲谷寺   | 寬永四年嶽山和尚開基  |                             |
| 圓通院   | 正保三年融越和尚開基  |                             |
| 洞川庵塔頭 | 慶德寺         | 明應六年雲澤和尚開基。寬永十年より中絶。萬治二年再興。 |

東源寺 文祿元年寶山和尚開基  
 昌泉寺 慶長二年湛翁和尚開基  
 秀翁院 寬永九年元固首座開基  
 傳法庵塔頭  
 千寧寺 長祿二年惟忠和尚開基  
 覺皇院 應永六年大徹和尚開基  
 永福寺 文明十二年可屋和尚開基  
 松岩寺 天正五年雄祝長老開基  
 如意庵塔頭  
 永壽院 貞和元年峨山和尚開基  
 瑞雲寺 長祿五年成翁和尚開基  
 青陽軒 天正十二年大室和尚開基  
 (七)鎮守—總持寺の境内には、神明宮・白山宮・十二社権現があるが、並びにその創建に就いては明らかでない。

ソウジエンキ 總持寺緣起 一冊。諸嶽山總持寺緣起ともいふ。國至郡總持寺の緣起で、漢文を以て書かれてゐる。

ソウジジツキヨウ 總持寺十境 總持寺内の十境を數へたもので、三松權徑(門前に在る)、碧洞流水(總門の前に在る)、玉橋風煙(大門の前に在る)、龜山松風(寺の右に在る)、鶴峰夕陽(寺の左に在る)、白岩前苔(鎮守社畔に在る)、官池明月(方丈の前に在る)、靈鷲峰花(官山の内に在る)、金鳳高閣(開山塔に在る)、南山春色(方丈の南に在る)をいうた。又高雄權樞・慈雲夏雨・瑞池秋月・鶴峰夜雪・首山朝嵐・鬼溪彈流・南嶺殘照・龜阜遠帆・三松龍燈・定巖春苔とすることもある。

ソウジノモノ 掃除之者 ↓トウナイ 藤ソウシヤ 總社 (一)總社の意義—國司はもと管内の官社は勿論、國內神名帳に登録せ